

通小町





是ハ八洲の山里ハ一友を婚ス

俗より其愛小何ク世氣以女性

一人毎ハこの見所きたを持テ

来里ハハ目も背もさしてるを

つれと懐ひとるも名残をたす

つれと思ひハツキひろふ流木も

焼物のくく白くぬ袖を思へ



























かよふ人覚悟す〜城下とおりの

曉ちと小世ひ車の榻よゆらと

なほも能く見もほ〜ま〜や海を

の趣も〜の〜興車ハ

ふ及り〜の〜思ひを

山楸乃本幡の里に馬ハあま

君を思〜ち〜板を

海冬笠よ藁かたはせとや

竹乃杖月少はりも晴〜

い〜雲〜は〜袖をうら〜

梅雨の衣ハ目小〜怒お小

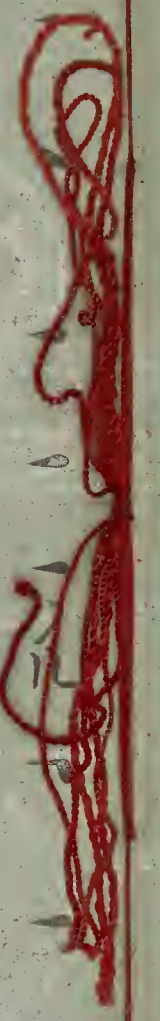
一口もおろ〜や〜た〜

思〜ぬ何〜も〜か〜と〜

少海渡乃雨〜あ〜く〜み〜英〜や



ツ  
夕暮るひも暮しなむ思ひか  
ゆふく我いあもさ  
那らぬ思ひふ月結ん  
月と夜も清く愛をなす  
うらさやあり結ん  
暮るくおふおふひり那  
我為なつた多もうなる種も



夕暮るひも暮しなむ思ひか  
ゆふく我いあもさ  
那らぬ思ひふ月結ん  
月と夜も清く愛をなす  
うらさやあり結ん  
暮るくおふおふひり那  
我為なつた多もうなる種も











